

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版, CASBEE埼玉2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	U-MACHINE 関東リソースセンター	階数	地上1F
建設地	埼玉県日高市	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	30人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2019年4月1日
敷地面積	7,290 m ²	作成者	飯塚 裕行
建築面積	3,131 m ²	確認日	2019年4月2日
延床面積	3,046 m ²	確認者	飯塚 裕行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.6

3 設計上の配慮事項		
総合 特になし	その他 特になし	
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 評価対象外及び、特になし	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー 評価対象外	LR2 資源・マテリアル 特になし	LR3 敷地外環境 特になし

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS U-MACHINE 関東リソースセンター 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、C
評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
0 建築物の環境品質							2.6
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-		
1.2 遮音		-	-	-	-		
1 開口部遮音性能		-	-	-	-		
2 界壁遮音性能		-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-		
1.3 吸音		-	-	-	-		
2 温熱環境							
2.1 室温制御		-	-	-	-		
1 室温		-	-	-	-		
2 外皮性能		-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		-	-	-	-		
2.3 空調方式		-	-	-	-		
3 光・視環境							
3.1 昼光利用		-	-	-	-		
1 昼光率		-	-	-	-		
2 方位別開口		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-	-	-	-		
3.2 グレア対策		-	-	-	-		
1 昼光制御		-	-	-	-		
3.3 照度		-	-	-	-		
3.4 照明制御		-	-	-	-		
4 空気質環境							
4.1 発生源対策		-	-	-	-		
1 化学汚染物質		-	-	-	-		
4.2 換気		-	-	-	-		
1 換気量		-	-	-	-		
2 自然換気性能		-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-		
4.3 運用管理		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		-	-	-	-		
Q2 サービス性能			0.43				2.9
1 機能性							
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-		
1 広さ・収納性		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-		
3 バリアフリー計画		-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-		
1 広さ感・景観		-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-		
3 内装計画		-	-	-	-		
1.3 維持管理		-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性		2.8	0.50				2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	天井:化粧PB壁:ビニールクロス、床:塩ビタイルを使用している	5.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VP、排水管:VPを採用している。	4.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20				
2.4 信頼性		1.4	0.20				
1 空調・換気設備		3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20				
3 電気設備		1.0	0.20				
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20				
5 通信・情報設備		1.0	0.20				

3 対応性・更新性			3.0	0.50	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり			2.8	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 = 321.6m/3045.8m ² = 0.1055	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井スペースが、確保されている。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 対象外	-	-	-	-	-
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	2.7
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		軽鉄+仕上材のため	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール使用のため発泡剤を用いた断熱材を使用していない。	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			2.9	0.50	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.50	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	日光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート



使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	U-MACHINE 関東リソースセンター 新築工事	BEE	0.7	BEEランク
------	---------------------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
0.0	+	2.0	=	2.0 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	0.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	0.0
< 配慮した内容を記述 > 特になし			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
< 配慮した内容を記述 > 特になし			

 : 入力欄